

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 5月13日 更新

事務事業名		食生活改善推進員支援事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2	福祉の健康			所属部	健康福祉部	課長名	末永 大樹
	施 策	5	健康づくりの推進			所属課	健康ほけん課	担当者名	溝口 寛子
	施策の柱	19	病気になる生活習慣の確立			所属班	健康づくり班	(内線)	1185
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 4	事業連番 10357	根拠法令		
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	食を通した健康づくりを推進している食生活改善推進員協議会（自主団体）を支援する事業。旧西合志町住民からの声で、平成6年に町が支援して自主団体として立ち上がる。合併により、合志市全体に活動範囲を広げる。平成18年度以降、隔年（平成18、20、21、23、25、27、29、31年度）で食生活改善推進員養成講座を実施した。R2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見合わせている。平成25年度には健康食レシピ集を作成した。また、令和2年度にミニレシピ集を作成した。平成30年5月号から広報「こうし」に食生活改善推進員協議会の健康食レシピを掲載している。
【業務の流れ】	食生活改善推進員協議会の事務局として、総会・役員会・推進員の学習会の支援や通知発送、推進員活動（親子料理教室、各地区料理教室、祭りへ出店、学校への伝承料理教室、男性料理教室等の開催等）の支援。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	食生活改善推進員協議会主催の教室（男性料理教室、親子料理教室等）に参加された市民からは、「このような活動を広げて欲しい」「推進員の活動により食の大切さを感じた」など、良い意見をたくさん聞いている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 総会や役員会、各活動への支援を行った。 新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていたものが再開したため活動は増加した。		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 総会、役員会、推進員学習会、各種教室の開催の支援を行う。また、養成講座を実施予定。 令和6年度より食育関係周知事務と統合し食生活改善推進事業とする。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア: 活動回数	回	令和6年度は養成講座実施による消耗品費、時間外手当（休日・時間外実施による）の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
⇒ イ: 食生活改善推進員協議会		⇒ ア: 推進員の数
		⇒ イ: 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
⇒ イ: 健全な生活習慣を身につけ、協議会の自主事業ができる		⇒ ア: 達成できた事業の割合
		⇒ イ: %
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
推進員が健全な生活習慣を身につけ、その勉強した成果を地域住民に広げることができることを目的として活動をしているため、成果の指標として、達成できた事業の割合とした。		全体計画 ~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	3年度実績(決算)	4年度実績(決算)	5年度目標(当初予算)	5年度実績(決算)	6年度目標(当初予算)	7年度予定	8年度見込	9年度見込
① 活動指標	ア 回		86	44	60	100	70	70	70	70
	イ									
② 対象指標	ア 人		52	48	55	42	55	55	55	55
	イ									
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100	100	100	100	100
	イ									
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	300	300	300	300	391	300	390
	(A) 事業費計		千円	300	300	300	300	391	300	390
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
			千円							
人 件 費	正規職員従事人数		人	2	2	2	1	2	2	2
	延べ業務時間		時間	415	380	400	300	300	300	300
	(B) 人件費計		千円	1,622	1,446	1,593	1,092	1,195	1,195	1,195
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,922	1,746	1,893	1,392	1,586	1,495	1,585

事務事業名	食生活改善推進員支援事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康ほけん課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した 平成30年度の広報から毎月、健康食レシピを掲載しており、活動の周知に取り組んでいる。 コロナ禍で縮小されていた事業がR5年度より再開され、活動が増加した。
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 広報に推進員で作成した健康食レシピを掲載することで、協議会の周知及び、健康食を伝えていく。令和2年度に作成したミニレシピ集を用い、健康食レシピを地域に広めていく。 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある⇒【理由】 より推進員の活動が円滑にいくよう、推進員自身の意識や知識を高めるための学習会を実施していく。 ☐ 向上余地がない⇒【理由】
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 ☒ 他に手段がない⇒【理由】 他に類似した事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 最低限の委託料にて活動を実施しているため、削減の余地がない。 ☒ 削減余地がない⇒【理由】
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 推進員自身でできることは行なっているため、最低限の人件費で行なっている。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 公平・公正である⇒【理由】 住民の依頼により、各種教室の開催や健康教室等の支援を行なうことができる。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である⇒【理由】 教室の準備や打ち合わせなど推進員と行政との役割分担ができています。

3 評価結果の総括（CHECK）

活動方法については、今後検討をしていく必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							